

俺が書いた女

中野  
劇団

# 俺が書いた女

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

嘉田洋治

岩永未希子

喫茶店。コーヒーを啜る未希子。

嘉田 ……面白いな。

未希子 ……面白い？ 不謹慎じゃないですか？ 人が真面目に話してるのに。

未希子の免許証を返す嘉田。

嘉田 こういうのって、作れるんじゃないんですか？ 俺には本物がどうかわかりませ

んし。

未希子 本物に決まってるじゃないですか。

嘉田 うーん。岩永未希子だって言い張るんですか。

未希子 質問に答えてくれませんか？ 何処で私のことを知ったのか。

嘉田 いや、だから知らないですって。

未希子 私のことを知らないで私のことを小説に書けるわけがないじゃないですか。

嘉田 未希子は架空の人間です。

未希子 やめて下さいよ。嘉田さん。あなたの書いた本、全部読みましたけど、どう考えたってあれは私のことです。たまたま同じ名前だったってレベルじゃない。あなたが何処で私のことを知ったのかは存じませんが、私のことを勝手にご自身の作品に登場させるなんて。何処で私のことを調べたんですか。私のことを知ってる誰かに聞いたんですか？

嘉田 ブレないなあ。君は役者か何かなのか？

未希子 だから岩永未希子だって言ってるじゃないですか。

嘉田 未希子は俺が考えた、俺の頭の中から生まれたキャラだ。どうやって作り出した

かも構想段階からのノートがあるから、それでいくらでも証明できる。君は俺の本を読んでこれを思いついたのか？

未希子 思いついた？ 私の話聞いてますか？

嘉田 聞ってるよ。全くよくできた話だ。君が俺の空想したままの見た目だったらもつと面白かったんだけどね。流石にそれじゃあSFだ。いや、今の時点でも充分突拍子もない。これで一つ話を書けそうな程だ。

未希子 いい加減にふざけるのやめてもらえませんか。私のことを一から考えて書いたって言うんですか？ この世に女性の職業なんてゴマンとあるんですよ。そんな中で結婚式場で働いているという設定までフルネームと被るなんて偶然で有り得ますか？

嘉田 俺の書いた本を読んだんだっいたらわかるだろう。未希子が結婚式場で働いているのは元恋人が自分の式場で結婚するって設定があるからですよ。できれば否定せずにもう少しこの状況を転がしてみたいところだけど。こっちは訊きたいことがある。君はどうやって俺の電話番号を知ったんだ。

未希子 所属事務所に電話して事情を話したら丁寧に教えて下さりました。

嘉田、溜息。

嘉田 事務所の人間が教えたのか？ 君が俺の書いた話の中の人物だと説明してか？

それで事務所の人間が教えたのか？ 誰だよ全く。

未希子 私の質問に答えてませんが。

嘉田 何が？

未希子 何処で私のことを知ったのか。

嘉田 今だよ！ 君という人間の存在を知ったのは。

未希子 は？

嘉田 君が突然電話してきて、話があるから会ってほしいって言われて、それで今日こ

こに来て、今自分から教えてくれた。君こそこんなことをして何が目的なんだ。

…書くのをやめろとも言うのか？

未希子 いえ。そんなこと言っても断られるでしょう。

嘉田 じゃあ何なんだ。君の目的は。

未希子 私のことをどうやって調べたかを教えてほしいって言ったじゃないですか。本に

なって発表されてしまったものは今更どうこう言っても仕方ありませんから。ただ、私の身近な誰かが私の情報をあなたに今も提供しているのかと思うと私は安心して眠ることもできません。それだったら私が直接先生にご報告しますよ。その日、誰と会って何をして、何を思ったか。勿論協力する場合はそれなりの報酬はいただきますけど。もし断るならこちらでも警察に掛け合います。ストーカーの被害届を出します。

嘉田

いやいや、ちょっと待て。君は何を言ってるんだ。そんな人物はいない。俺は完全に想像で岩永未希子を書いたんだ。

未希子

そんなわけないじゃないですか。あんなに具体的に書いておいて。

嘉田

君こそ俺の本を読んで、それで合わせて言ってるだけだろ。

未希子

三十三歳独身っていうのも一緒。血液型がA型っていうのも一緒。

嘉田

それも偶然だろ。日本人の三割はAだよ。君だって想像できるだろ。もし俺が本当に君の個人情報をごっそり調べて俺の本に登場させたんだったら、流石に名前を変えるだろ。バレるリスクがあるのに、同じ名前使うわけないだろ。名前そのまま使って本人にばれて訴えられたりしたらバカだろ。

未希子 まさに今、されてるような言い訳をするためじゃないんですか。

嘉田 はあ？

未希子 盗人猛々しい。

嘉田 ……逆に聞きますがあなたは本当に結婚式場で働いてるんですか。

未希子 そういうことを聞かれるかと思って。

アルバムを見せる未希子。

未希子 今まで私が担当した新婚さんたちです。

嘉田 こんなアルバム何処かで借りて来たのかもしれないだろ。

未希子 ここに私が写ってます。

嘉田 どれだよ？

未希子 これです。

嘉田 小さくてわからないよ。

未希子 こっちはどうですか。

新婚さんとスリーショット。女はスタッフっぽいスーツを着ている。

嘉田 これだけ誰かに頼んで撮らしてもらったんじゃないのか。

未希子 何のためにそんな手の込んだことを。

嘉田 こうして俺を陥れるためだろ。

未希子 そんな利のないことしませんよ。

嘉田 仮に百歩譲って君の名前が本当に岩永未希子で結婚式場で働いているのが本当だとしても、ただの偶然の一致なだけだ。未希子は俺が一から考えたキャラだ！

誰にもヒントをもらってなんかいない。

未希子 そのわりには私の仕事のこと随分詳しいじゃないですか。

嘉田 それは結婚式場で働いてる友達に話を聞いたたり、ネットで調べたりしたからですよ。

未希子 私のことを調べたんじゃないんですか？

嘉田 そう言ってるじゃないですか。

問。



未希子 もし私のことを調べたのではないとすれば、私はあなたが生み出した登場人物ってことになります。

嘉田 ……はあ？

未希子 だってそうでしょう？ ここまで偶然が重なることはあり得ない。あなたが私のことを調べて書いたのではないなら、私はあなたが書いた通りになるということです。だとすれば私はあなたにどうしても訊きたいことがあるんです。

嘉田 何言ってるんですか。

未希子 登場人物だと、受け入れるほかないと言ってるんです。他に可能性がありますか？

嘉田 あるよ。

未希子 どのような？

嘉田 君が嘘をついてるって可能性だよ。

未希子 それはいいんです。

嘉田 だからそれを君が口で言ってるだけじゃ何の証明にもならないだろ。誰なんだよ君は？

未希子 誰？ 私のことあれ程詳しく書いておいて。

嘉田 たかが百部そこそこの程度しか売れない同人誌ですよ。君こそストーリーカーじゃないか！

未希子 ……そうですよ。自分が担当して気に入った新郎をストーキングをする女。あなたが書いた通りです。

嘉田 ……そうだけど。

間。

嘉田 ……何なんですか。俺にどうしても訊きたいことって。

未希子 私はいつ結婚できるんですか。

嘉田 知らないよ！ ストーカーやめろ。

終わり。